

武家地不足問題の最前線

苦渋の決断も 担当者「未だ見通し立たぬ課題多い」

国替えにより松平下総守家を藩主に迎え、新体制となった忍藩。先の藩主である阿部家に比べて松平家は国元詰めの家臣数が多く、武家地の確保が喫緊の課題となっている。

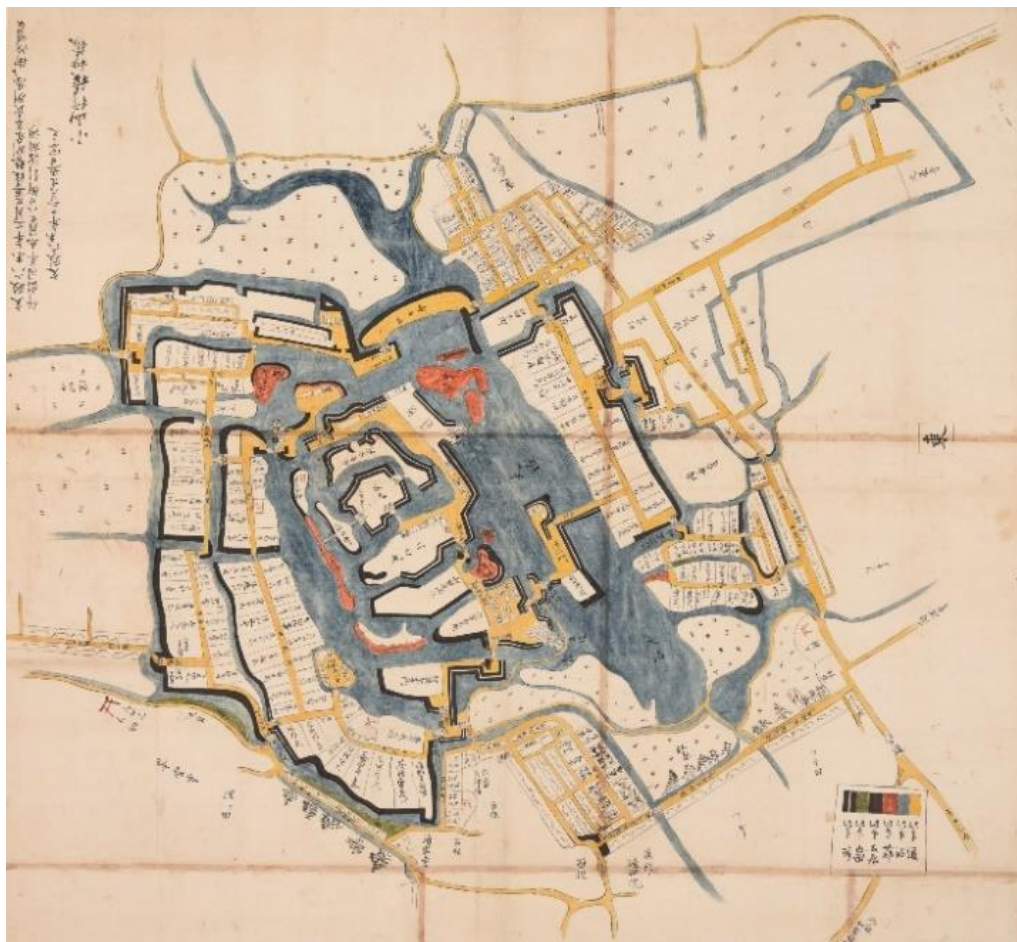
担当者に聞くと、当初は阿部家時代と同様の武家屋敷と長屋を用いて屋敷割の試案を作り上げたという【下図】。しかし居城の変更だけでなく領地も村替えされることにともなって、大坂蔵屋敷や伊勢国大矢知陣屋に詰める役人の体制も再編され、国元詰めとなる予定だった者が陣屋詰めを命じられるなどの異動が生じた。

さらに物理的に家数に対する屋敷数が圧倒的に不足してお

忍城かわら瓦版ばん

発行所：
埼玉県行田市本丸
17-23
発行人：
行田市郷土博物館

お引越しなら
川船輸送
酒巻河岸発 大荷物可
下総守様御家中割引有



→屋敷割の試案が反映された城絵図(文政六年忍城図)

り、この試案をふまえ、さらに屋敷を分割し、新たな道を通すことよって、屋敷数を増やす手法を導入しているという。

具体的には、城郭の南西部にあたる下新井がわかりやすい例である。阿部家時代以来、城郭中央部からみて放射状に屋敷割がなされてきたが、それでは一軒ごとの屋敷地が広大となる。そこで、屋敷間にT字の新道を通し、広大な屋敷を分割することで、複数の屋敷地を確保することに成功したのだ。

各種訓練施設廃止へ 大胆な解決策その後

しかし、それでもなお屋敷数は足りず、担当者は苦渋の決断を迫られる。それは、城内の馬場曲輪に設けられていた馬場、矢場、そして鉄砲矢場の廃止とその跡地への長屋新設であった。計画はすぐ

実施され、その様変わりした構造は城絵図からもつぶさに読み取ることができ

アッ!という間の御用立

武具馬具 行田八幡町店

安心価格 最短即日納品

このようにできうる手立てを講じて武家地割が進められているが、未だ解決の見通しが立っていない課題も多いという。第一に未だに武家地が足りないという点、第二に桑名で創設した藩校進脩館の再興、そして第三に東照宮の遷座、以上の課題は引き続き普請奉行を中心に調整が行われていくことになるだろう。

(城下在住)